

## 本学の学生および修了生が各種表彰を受けました

令和5年11月3日(金)・18日(土)

岐阜大学環境サークル「G-amet」が複数の大会で賞を受賞



令和5年11月11日(土)

学生チームが「Tongaliアイデアピッチコンテスト2023」で4つのサポーター賞を受賞



令和5年11月18日(土)・19日(日)

学生チームがVR大会「IVRC2023」で複数の賞を受賞



令和5年12月16日(土)

学生チームがプログラミング作品の制作大会「技術CAMPアドバンスVol.4」で大賞を受賞



## 垂井町、神戸町、池田町と連携に関する協定を締結しました

令和5年12月から令和6年2月にかけて垂井町、神戸町、池田町と連携に関する協定を締結しました。この協定は、本学と各自自治体が多様な分野で包括的に緊密な協力関係を築き、持続的・発展的に一層連携を深めることにより、活力ある地域社会の形成・発展および未来を担う人材育成に寄与することを目的としています。今後、本学は各自自治体と連携を深め、地域創生に向けて共に取り組んでいきます。

令和5年12月12日(火)

垂井町と連携に関する協定を締結



令和6年1月22日(月)

神戸町と連携に関する協定を締結



令和6年2月13日(火)

池田町と連携に関する協定を締結



## 「考えようSDGs! エコ活動啓発ポスターコンクール」を開催しました

令和5年12月14日(木)

十六銀行と締結した環境保全における連携に関する覚書の一環として、SDGsについて考え、省エネ、環境美化運動やごみ減量など身近な視点から、エコ活動を啓発することを目的としたポスターコンクールを実施しました。対象は教育学部附属小中学校の児童生徒。この活動が環境について考えるきっかけとなり、エコ活動が広がっていくことを期待しています。



## 地域協学センター益川浩一教授が社会教育功労者表彰を受賞

令和6年2月19日(月)

社会教育功労者表彰(文部科学大臣表彰)は、地域および全国において多年にわたり社会教育の振興に功労があった者に対し、その功績をたたえるものです。本学地域協学センターの益川浩一教授は岐阜県社会教育委員の会議長を長年務めるなど、これまでの地域における社会教育振興の功労が認められ、今回の受賞となりました。



## 学生の提案で「丸亀シャカシャカ揚げうどん」が商品化

令和6年2月27日(火)

令和4年に開催された「第2回トリドール持続可能ビジネスコンテスト」で、社会システム経営学環の大橋菜実さんと與川美佑さん(1期生:3年生)が、食品ロス削減に向けた商品「丸亀シャカシャカ揚げうどん」を提案。令和5年2月から実現化に向けたプロジェクトがスタートし、丸亀製麺の協力を得ながら試作を重ねた商品が完成。岐阜・埼玉県内の2店舗で限定販売されました。



## 毛利哲也教授がAurelijus Zykas駐日リトアニア共和国特命全権大使から感謝状を授与されました

令和6年3月6日(水)

本学工学部・毛利哲也教授は長年にわたりリトアニアと日本との関係促進に尽力したことが評価され、東京で開催された「リトアニア共和国再建106周年ならびに独立回復34周年記念を祝うレセプション」において、Aurelijus Zykas駐日リトアニア共和国特命全権大使から感謝状を授与されました。本学はこれからも岐阜県が親交を結ぶ同国と一層友好な関係を構築し交流活動を推進していきます。



※駐日リトアニア共和国大使館より提供

## 全学共通教育棟1階多目的ホールの愛称が「IBIDEN Innovation Hub」に決まりました

令和6年4月1日(月)

イビデン株式会社とのネーミングライツ(命名権)契約に基づき、全学共通教育棟1階多目的ホールの愛称を「IBIDEN Innovation Hub」に決定しました。「多くの人にここを最大限に活用して、イノベーションを繰り返してほしい」との願いが込められた名称で、2029年3月31日までの5年間使用されます。今後はネーミングライツ事業により得た収益を活用して、学生の学修環境の整備に取り組んでまいります。



## 国立がん研究センターと教育・研究・医療等の包括的連携協力に関する協定を締結

令和6年2月27日(火)

本協定は、両機関の包括的な連携協力のもと、相互の機関のさらなる発展を目指し、がん領域での教育・研究・医療活動の一層の充実と質の向上を図り、学術および医療の発展と有為な人材の育成に寄与することを目的とするものです。今後、本学と国立がん研究センターは、本協定に基づき、新たな医療シーズの創出や共同研究プログラム開発の推進など、多方面で連携を進めていきます。



## 第1回SPARC-GIFUシンポジウムを開催しました

令和6年3月13日(水)

講堂にて「第1回SPARC-GIFUシンポジウム」を対面およびWeb同時配信で開催し、合わせて100名以上の方に参加いただきました。このシンポジウムは、ぎふ地域創生人材育成プログラム(SPARC-GIFU)を紹介するとともに、これからの展望を産官学各団体とディスカッションするために行われました。各方面から現状の課題や事業への期待などが活発に意見交換され、今後の事業推進に際してとても有意義な場となりました。



## 「岐大生 住んでみよう!」プロジェクトを開始し、学生が揖斐川町に住み始めました

令和6年4月1日(月)

揖斐川町においては、少子高齢化、過疎化が進み、若者の流出、人口減少、地域の衰退が課題となっています。本プロジェクトは、揖斐川町のアパートなどに学生が居住できる仕組みを創り、学習・研究環境、生活環境を整備。さらに学生が地域の活動などに参加することで地域の活性化やにぎわい創出につなげることを目的としています。4月から本学学生が揖斐川町に居住し始めました。

